



**2014年 9月改訂 (第7版)
*2008年 3月改訂

貯 法：室温保存
使用期限：容器、外箱に表示
注 意：取扱い上の注意の項参照

日本標準商品分類番号 873319	
	ソルマルト輸液
承認番号	21900AMX01463
薬価収載	2007年12月
販売開始	1996年 8月

マルトース加酢酸維持液

処方箋医薬品^{注)}

ソルマルト[®] 輸液

SOLMALT[®]

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)

- (1) 高カリウム血症、乏尿、アジソン病、重症熱傷、高窒素血症のある患者
[高カリウム血症が悪化又は誘発されるおそれがある。]
- (2) 高リン血症、低カルシウム血症、副甲状腺機能低下症の患者
[高リン血症又は低カルシウム血症が悪化又は誘発されるおそれがある。]
- (3) 高マグネシウム血症、甲状腺機能低下症の患者
[高マグネシウム血症が悪化又は誘発されるおそれがある。]

【組成・性状】

〈成分・分量〉

	1袋 200mL中	1袋 500mL中
有効成分		
マルトース水和物	10.0 g	25.0 g
酢酸ナトリウム水和物	0.544 g	1.3608 g
塩化ナトリウム	292 mg	730.6 mg
塩化カリウム	104 mg	261.0 mg
リン酸二水素カリウム	272 mg	680.5 mg
塩化マグネシウム	102 mg	254.2 mg
添加物		
希塩酸 (pH調節剤)	適量	適量

〈電解質量〉

	1袋 200mL中	1袋 500mL中
Na ⁺	9 mEq	22.5 mEq
K ⁺	3.4 mEq	8.5 mEq
Mg ²⁺	1 mEq	2.5 mEq
Cl ⁻	7.4 mEq	18.5 mEq
H ₂ PO ₄ ⁻	2 mEq	5 mEq
Acetate ⁻	4 mEq	10 mEq

〈熱量〉

	1袋 200mL中	1袋 500mL中
熱量	40 kcal	100 kcal

〈性状〉

性状	無色～微黄色澄明の液で、弱い塩味と甘味がある。
pH	4.3～6.3
浸透圧比	約 1 (生理食塩液に対する比)

【効能又は効果】

経口摂取が不能または不十分な場合の水分・電解質の補給・維持
エネルギーの補給

【用法及び用量】

通常、成人には1回500～1000mLを徐々に静脈内に点滴注入する。投与速度は通常成人ではマルトースとして1時間あたり0.5g/kg体重以下とする。なお、年齢・症状に応じて適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与

(次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 高カリウム血症を伴わない腎不全のある患者
[腎不全病態が悪化するおそれがある。]
- (2) 心不全のある患者
[心不全が悪化するおそれがある。]
- (3) 閉塞性尿路疾患により尿量が減少している患者
[水及び電解質が蓄積するおそれがある。]

2. 副作用

(1) 重大な副作用

アナフィラキシーショック

アナフィラキシーショックを起こすことがあるので、観察を十分に行い、呼吸困難、血圧低下、頻脈、蕁麻疹、潮紅等の症状が認められた場合には投与を直ちに中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度については文献等を参考にした。

	頻度不明	0.1%未満
過敏症		発疹 そう痒感
大量・急速投与による障害	脳浮腫 肺水腫 末梢の浮腫 水中毒 高カリウム血症	

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

4. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない（使用経験が少ない）。

5. 臨床検査結果に及ぼす影響

グルコース脱水素酵素（GDH）法を用いた血糖測定法ではマルトースが測定結果に影響を与え、実際の血糖値よりも高値を示す場合があることが報告されている。インスリン投与が必要な患者においては、インスリンの過量投与につながり低血糖を来すおそれがあるので、本剤を投与されている患者の血糖値の測定には、マルトースの影響を受ける旨の記載がある血糖測定用試薬及び測定器は使用しないこと。

6. 適用上の注意

(1) 適用

本剤を投与する場合は患者の尿量が1日500mL又は1時間あたり20mL以上あることが望ましい。

(2) 調製時

カルシウムイオンと沈殿を生じるので、カルシウムを含む製剤と配合しないこと。

【取扱い上の注意】

〈使用前の注意〉

- 内容液が漏れている場合や、内容液に混濁・浮遊物等の異常が認められるときは使用しないこと。
- 排出口をシールしているフィルムがはがれているときは使用しないこと。

〈調製時の注意〉

- 使用時には排出口をシールしているフィルムをはがすこと。
- 注射針は、無菌的操作により、ゴム栓の刻印部にまっすぐ刺通すること。斜めに刺すと、ゴム栓や排出口内壁の削り片が薬液中に混入したり、容器を刺通し液漏れの原因となったりすることがある。
- 薬剤を配合するときには、よく転倒混和し、配合変化に注意すること。

**〈投与時の注意〉

- 本品に通気針（エア針）は不要である。
- ** ● 輸液セット等のびん針を接続する際は、ゴム栓の刻印部にまっすぐ刺通すること。
- 連結管を用いた2バッグ以上の連続投与は原則として行わないこと。

〈ソフトバッグの取扱い上の注意〉

- 本品は軟らかいプラスチックのバッグなので、鋭利なもの等で傷つけないこと。液漏れの原因となる。
- * ● 包装袋より取り出したまま保管すると、内容液が蒸散する可能性があるため、速やかに使用するか包装袋に戻し封をすること。
- ** ● 容器の目盛りは目安として使用すること。

*〈安定性試験〉

加速試験（40℃、相対湿度75%、6カ月）の結果、通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された^{1), 2)}。

【包装】

200mL×30袋
500mL×20袋

*【主要文献】

- 1) テルモ株式会社：200mLの安定性試験（社内資料）。
- 2) テルモ株式会社：500mLの安定性試験（社内資料）。

*【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

テルモ株式会社 コールセンター
〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目44番1号
TEL 0120-12-8195